

# AFC フォーラム Forum

Agriculture, Forestry, Fisheries, Food Business and Consumers

# 10

2017

## 特集 徹底解説・GAPを説く



特集

## 徹底解説・GAPを説く

### 3 真の持続的農業生産システムの構築

田上 隆一

GAPは農業に対する消費者の信頼を得るための農業倫理の課題である。東京五輪をきっかけに未来へつなげる農業の健全化に、日本社会の取り組みを問う

### 7 国際化には周回遅れの食品安全規格

岸 克樹

日本は食品安全の国際規格対応に遅れている。品質面で秀でた日本食品を世界に紹介するためには、収斂し国際水準に合わせていくことが必要だ

### 11 GAPへの理解と目的の明確化を

荻野 宏

農業経営にメリットの多いGAPだが、国内の認証取得農場数は4,500と少ない。GAP普及に向けて課題とされる事項と対応の方向性を示そう

情報戦略レポート

### 15 飼料用米の認知度高まらず 畜産物や加工品購入は「味」などがカギ

—2017年度上半期 消費者動向調査—

経営紹介

経営紹介

### 23 有限会社アクト農場／茨城県 関 治男

自らを「野菜生産の請負人」と表現する、請負生産で黒字経営を続ける野菜生産者。契約相手先や地域と確かな信頼関係を築き、強い絆を結ぶ

変革は人にあり

### 27 ポークランドグループ／秋田県 豊下 勝彦

滅菌管理されたSPF豚を、相反する技術である土中のバクテリア菌で作る生物活性水を活用し大規模に飼育・出荷をする、異端児発想の先駆者を紹介



撮影:青柳 健二  
新潟県長岡市  
2015年初秋撮影

夕映えの稲穂

■ 雨上がりの夕方、差し込んだ夕日がたわわに実った稲穂を茜色に染め上げた ■

シリーズ・その他

観天望気

農村の教育力 斎藤 潔 ..... 2

農と食の邂逅

有限会社酒井農園／徳島県

酒井 和代

青山 浩子(文) 河野 千年(撮影) ..... 19

フォーラムエッセイ

脳を意識して食べてます! 堀尾 正明 ..... 22

主張・多論百出

福島県喜多方市教育委員会

中村 豊子 ..... 25

耳よりな話 186

種子をまくイチゴ 吉岡 宏 ..... 30

まちづくりむらづくり

農業用トラクター「メカ馬」が走る

BAMBAは万人の人で溢れかえる

国際トラクターBAMBA実行委員会/北海道河西郡更別村

吉本 正美 ..... 31

書評

長岡 淳一 阿部 岳 著

『農業をデザインで変える 北海道・十勝発、ファームステッドの挑戦』

村田 泰夫 ..... 34

インフォメーション

第11回「アグリフードEXPO大阪2018」の出展者を募集しています 情報企画部 ..... 35

第12回「EXPO東京」商談引き合い件数過去最多 情報企画部 ..... 36

交差点 香港最大級の国際食品見本市で日本農水産物・食品輸出を支援 情報企画部 ..... 36

みんなの広場・編集後記 ..... 37

ご案内

第11回アグリフードEXPO大阪2018 ..... 38

#### 11月号予告

特集はスマート農業を予定。

労働力不足や技術の承継、生産工程管理など農業課題解決の切り札として期待される技術の到達点と課題を探る。

# 望天 観気

## 農村の教育力

「農業の経営資源」と言うとき、あなたは何を思い浮かべるだろうか。農地、作物や家畜、機械・施設などがあるだろう。これらは大切な資源だが、全て有形資源であり、そこに資源制約があるからこそ希少資源を効率よく利用することが、農業の強みを活かし競争力を高めると考えられてきた。その延長線上で農業者という人的資源を有形的に捉えた場合、それは労働力という資源になり、その資源制約から他資源で代替されてきたと言える。

しかし今、日本農業を成長ビジネスへと転換させようとするならば、人的資源を有形的に見ることはむしろマイナスに作用するように思える。人的資源に限らず有形資源からは、産業を動かすパワーが失われているのではないだろうか。産業を動かす力をイノベーションと言うのなら、その源は人的資源が蓄積する技術力や情報力、文化発信力、人脈、経験などの無形資源にあり、それが新たな農業価値を生み出している。無形資源の強みは、そこに資源制約が発生しないことだ。

人間の頭は無限のアイデア、イメージを生み出している。そこに資源制約はない。だからこそ問われるのは資源の質なのだ。そして人的資源の質を高める取り組みを「教育」と呼んでいる。

教育は学校で与えられるものではない。教育は、日々の仕事・生活そのものが学びや気付きの場であることを自覚するものだ。そういう観点で、私が懸念するのは日本の農村現場における教育力の衰退という事態である。三〇年ほど前までは全国各地の農業集落に稲作研究会などの農業者の自発的な活動が展開していた。4Hクラブ（農業青年クラブ）の活動や生活改善活動も、より充実していたのではないだろうか。もちろん、今ではそれらの活動の中から六次産業化の起点になるニュービジネスも生まれてきている。

しかし、それは持続的な教育活動と位置付けられるのだろうか。アメリカやイギリスでは、今の時期、各地で農業フェアが開催されており、子どもたちを含めた一般の人びとが集う場になっている。それは三〇〇年近くにわたる農業教育の場として、それらの国々の農業価値観を引き継いできた。「継続は力なり」がそこにある。



宇都宮大学農学部 教授

齋藤 潔

さいとう きよし

1959年青森県生まれ。東北大学卒業。東京大学大学院修了。東京大学助手、日本農業研究所主任研究員を経て、2000年から現職。06～07年アイオワ州立大学農業教育学科客員教授。専門はアメリカ農業論。主な著書に『アメリカ農業を読む』（2009年、農林統計出版）。



名産地として知られる  
日本屈指のレンコン産地  
家族共働の大規模農業  
非農家から新たな人生  
いい選択でした、私。

農と食  
の邂逅

酒井 和代 さん

徳島県鳴門市  
有限会社酒井農園

インターネットを活用するなど、生産者自らの直接販売が増えている。レンコン大規模産地で家族共働で目指す地球にやさしい農業は、作り方や作物の情報提供など他とは違う差別化を武器にして。





P19: 時間を見つけて、洋裁の他、ハワイアンダンスにも通うなど多彩な趣味を持つ和代さん P20: 苦労して掘り上げたレンコンは義父、理さんの名前にちなみ「理(さと)りレンコン」というブランドで販売される(右上) 地下水できれいに洗ってから出荷する(右下右) 徳島県産のレンコンは他産地より高い相場で取引される(右下左)「やんちゃざかり」という創大君と晶大君と共に(左)

## 非農家からレンコン農家へ

徳島阿波おどり空港から車で鳴門市大津町へと向かう。徳島県内でも有数のレンコン産地とあって、車窓から見事なレンコン畑が広がる。白やピンクの花も咲き、極楽にいるような気分になる。

同町内に約八〇戸あるレンコン農家の中で、酒井農園は異色の存在だ。系統出荷が多い土地柄にあつて、年間に生産する約六〇トンのレンコンのおよそ七割を小売店や消費者に直接販売する。安全性も重視し、四診ある全てのほ場での農薬使用量を慣行栽培に比べて八〇%以上減らし、一部では有機栽培も行っている。

三、四月に植え付けたレンコンは、品種により七月から出荷でき、品種を変えながら翌年六月までほぼ一年中出荷する。酒井和代さん(三六歳)の役割の一つに、夫で代表取締役の建記さん(三九歳)、義父の理さん(六七歳)、義母の初江さん(六七歳)が収穫したレンコンを、きれいに洗って出荷するまでの作業がある。「アクが少なく、甘みが引き立つ」と圧倒的なブランド力を持つ徳島県のレンコンだが、スーパーによっては「酒井さんのレンコン以外は売らない」と指名買いされるほど高い評価を受けているだけに、出荷作業にも気をを使う。

和代さんが本格的に農園の仕事を始めたのは二〇一五年から。「一本たりとも同じ形がないレンコンですが、お義父さんはあつとい

う間に箱にきれいに入れます。重さも手に持つ感覚だけで当ててしまうけど、私はまだまだです」と謙虚に言う。

大津町から車で四〇分ほど離れた佐那河内村で生まれ育った和代さん。村役場に勤めていた時、建記さんと知り合った。すぐに意気投合し、三カ月ほどで結婚に至った。「農家に嫁ぐと言うと心配する人もいますが、私はむしろ同じ公務員と結婚するよりいいと思います。農家ならば少なくとも食べることは困らないし(笑)」。そして、「(人生の選択が)良かったかどうか分かるのはあの世に行ってから」という自らの母の名言に従い、建記さんと添い遂げる決心をした。「非農家出身で、レンコンのことも全く知らなかった。パパ(建記さん)と知り合つてすぐに『レンコンもゴボウみたいに縦に生えるの?』と聞いて、大笑いされました」

結婚して間もなく、長男の創大君(六歳)が、三年後に次男の晶大君(三歳)が生まれた。その後しばらくは家事や育児が中心だったが、徐々に出荷伝票を書いたり、レンコンを粉砕したパウダー作りをしたりと仕事を増やし、現在は出荷と加工作業をほぼ任されるようになった。

## レンコンに「途な」パパを支えたい

レンコンの収穫作業といえば、水を張った畑にウエットスーツを着て入り、ホースの水を使って水圧で泥を飛ばしながら収穫する様子を思い浮かべる。しかし、徳島のレンコ





ンの収穫方法は違う。「強い粘土質の土壌なので、水圧をかけても浮いてこない」（建記さん）からだ。

収穫の数日前に畑の水を抜き、葉っぱや茎をトラクターで除去した後、パワーショベルで表土を取り除く。その後、地表に出た小さい芽を頼りに、熊手を使って地中に埋まったレンコンを掘り上げていく。傷付けないように一つ一つ丁寧に腰を曲げたまま、足を取られるほど粘っこい泥の中を長靴で進んでいく作業がどれほど過酷な作業なのかは建記さんのたくましい体つきを見れば分かる。建記さんは収穫作業が終わった夜も一人トラクターに乗って、ライトを点けて畑を耕す日もあるという。

そんな建記さんの姿を見て、和代さんは「レンコンに対し、あそこまで一途で、誇りを持って仕事をしているのは本当にすごい」と感服。「私の目にはレンコンとパパは一体化しているように映ります」

収穫作業にこそ直接かわかっていないが、和代さんも幼い二人の子どもの面倒をみながら、六、七月にあるわずかな端境期を除き、日々はレンコンと共にある。非農家から嫁いだ和代さんにとってはタフな毎日だという。一日中休みなく体を動かす生活に慣れるにはもう少し時間がかかるのかもしれない。それでも「レンコンのおいしさを知ってもらおうとパパが頑張っしょうけん、石にかじり付いてでもやっていかなければ」と自らを奮い立たせている。

### 食べ手の視点で情報発信

そんな和代さんを横目で見ながら建記さんは「農家出身じゃないからこそできることがあると思う」と話す。「食べ方や保存方法など、自分たち農家にとっては当たり前とされていることを知らない消費者は多い。そういう視線に立てるんじゃないかと思います」

消費者に発送する際、レンコンに添えるリーフレットは和代さんが手作りしたものだ。下ごしらえの方法や保存方法と共に、料理方法も紹介している。手の込んだ料理はあえて載せない。「忙しかったり、料理が苦手という人に、時間をかけず簡単でおいしく食べられる方法があることを伝えたい」と和代さん。リーフレットを読んで驚いたことは、レンコンは節によって菌触りや味が異なり、料理によって使い分けられることだ。「第一節はあえ物や酢の物でシャキシャキ感を楽しめます」「ずっしり太い第三節は、もっちり粘り

があるので煮物向き」とある。

これこそ、生産者だから知っている情報であり、消費者にとっては大きな発見だ。和代さんは「れんこんパウダー」を使ったレシピづくりにも力を入れている。小麦粉の代わりにお好み焼きに少し入れるとふわっと仕上がりが、シフォンケーキに入ればしっとり仕上がると。小麦アレルギーのある人にも重宝されるという。

農園の様子はフェイスブックでも発信している。ほ場にいる時間が長い建記さんが写真を撮り、和代さんが文章を添えるという共同作業に仲の良さがうかがえる。

和代さんの趣味は洋裁。着やすさを優先した普段着を作り、SNSで発信している。「時間的な余裕がないので、なかなか作れないんです」と言うが、毎月一回徳島市内で行われるマルシェではリスパッツと呼ばれる股上の深い自作のパンツを身にまとい、ファッション通のお客さんとの会話が弾むことが多いという。「農産物販売以外のところで、消費者とつながる手段が持てるのは良いこと」と建記さんも応援している。

SNSで紹介されている洋服からは、着心地の良さを大切に考える和代さんの優しさを感じられる。レンコンへの想いも同じで、あくまでも食べる人に想いを寄せながら情報発信をしている。日本を代表する徳島のレンコンのおいしさを食べ手の目線から発信する。これほど強力なタッグはない。

（青山浩子／文、河野千年／撮影）

四〇年近く、この仕事をしていると、さまざまな情報が入ってきてはその知識も更新されてきました。例えば、現代医学において、人間の幸福感や気の持ちようは「脳科学的に分析できる」といいます。

脳から分泌される「セロトニン」という神経伝達物質は、脳機能を安定させる働きがあり、安心感や満足感という感情を生み出すものとして、今ではすっかり有名になりました。「うつ病」の人はセロトニンが脳内に足りないことも分かっています。

私も最近の診察で、「あなたの脳にはセロトニンが少なくなっている」と診断され、シヨックを受けました。「あと、ドーパミンの出力も悪くなっているから、注意してください」ですって。原因は、睡眠不足が重なってしまったからだそうですが、もともと日本人は「うつ病」になりやすい民族らしいのです。

少し、難しくなりますが、セロトニンが神経細胞に取り込まれる時に活躍するのが「セロトニントランスポーター」と呼ばれるたんぱく質で、ポンプのような役割を果たす物質です。もともとこの物質が少ないタイプの人日本人だと七割ほどいるといいますが、アメリカ人は二割程度です。つまり日本人は脳科学から見ても、欧米人に比べて、自分に対して厳しく、危機意識が必要以上に高い人が多いといわれています。それが「謙譲の美德」にもつながっていると思いますが、やはり「私って駄目な人間なんだ」と、自信を喪失する原因にもなっているのです。

私は、そのセロトニンやセロトニントランスポーターを脳の中に増やす効果があるのはどんな食べ物なのかを研究しました。その結果、肉を食べることがまず大事だということ。そして、脂肪酸の一種であるドコサヘキサエン酸(DHA)やエイコサペンタエン酸(EPA)などの物質がたくさん含まれている青魚、オメガ3系脂肪酸が多く含まれているアマニ油やえごま油を意識して取ることです。これらは、認知症予防にもつながる食べ物ですが、何よりも「うつ病」対策には必須の栄養素であることが分かりました。私も最近はおアジのなめろうやサバのみそ煮、サンマの塩焼きなどを積極的に食べるように心掛けています。

皆さんも、うつ病や認知症にならないために、これらを毎日たくさん食べましょう！



フリーキャスター  
堀尾 正明

ほりお まさあき  
1955年生まれ、埼玉県出身。早稲田大学卒業。俳優座退団後、81年NHKに入局し、北九州、福岡、大阪、東京で司会や報道番組のメインキャスターを務め、2008年退職。現在、TBS系列「ビビット」、日本テレビ系列「誰だって波瀾爆笑」、BS-TBS「諸説あり！」などの番組で総合司会などとして活躍中。

## 脳を意識して食べてます！

福島県喜多方市教育委員会 学校教育課  
課長補佐・指導主事

## 中村 豊子

(五五歳)



● なかむらとよこ ●  
一九六一年福島県生まれ。八六年福島大学  
教育学部卒業。小学校教諭として県内五  
市町、七校に勤務。喜多方市内では、第一小  
学校と塩川小学校に勤務し、実際に子ど  
もたちと農業科の学習を行う。二〇一七年  
四月より現職。

### 小

「学校で農業の授業がある」と聞いたら、皆さん驚かれますよね。しかし、決してこれは農業後継者を育成するための取り組みではありません。「土を耕し、種をまき、命を育み、命をつなぐ」という人間にとって最も基本的な活動である農業を通して、「豊かな心」「社会性」「主体性」を育成することが、「喜多方市小学校農業科」のねらいです。

喜多方市は、雄大な自然と良質な水に恵まれ、米を基幹作物とし、グリーンアスパラなど園芸作物の栽培にも力を注いでいます。ですから、「第二の自然」と呼ばれる田んぼや畑(環境)と農業従事者(支援員)に恵まれていることが基盤にありました。

そんな喜多方市で農業科の構想が生まれたのは、当時、喜多方市長だった白井英男さんが教育委員会に話を持ち掛けたのがきっかけでした。「国語や算数と同じように、子どもたちに農業を勉強させたい」と。その想いが通じ、二〇〇六年に国の構造改革特別区域として「喜多方市小学校農業教育特区」の認定を受け、小学

校に全国初の教科としての喜多方市小学校農業科を設置し、翌年三校で農業科の授業がスタートしました。

しかし、国語や算数には指導の基準となる「学習指導要領」がありますが、農業科にはそうしたものが何もなく、私たちは途方に暮れました。参考にと農業高校を訪れ、先生方に意見を聞きました。「作物も家畜も生き物ですから、命の大切さが分かります」との答えに、私たちは農業を教育に取り入れる価値が大きいことを知りました。

〇八年三月、農業科の指導内容が「総合的な学習の時間」で実施可能となったため、〇九年度から総合的な学習の時間での取り組みとなり、一二年からは市内一七校全ての小学校で農業科を実施することになりました。この間、大勢の皆さまにご支援をいただいたことは言うまでもありません。

農業科の学習効果を上げるために、市では三つのポイントを大切にしています。まずは、野菜など農作物を種から作ることです。「こんな小さな一粒の種から、あ



んなにたくさん大豆ができるの？」と、子どもたちは命の不思議さに関心を向け、愛着を持って世話をします。次に、できるだけ手をかけることです。自分が育てている苗がどのくらい伸びたのか、物差しを手に記録を取ります。そして、ゴールを見据えて作付けすることです。「豆腐作りや芋煮会、餅米と小豆を収穫した学校はお赤飯にしてお年寄りに配るなど、共通体験を通して収穫の喜びと作物を無駄にしないことを学びます。

て、喜多方市の農業科が全国的に知れ渡るようになったきっかけがありました。それは、東日本大震災の翌年、「第四」二回日本農業賞・特別部門第九回食の架け橋賞」において大賞を受賞したことです。結果、ここ数年は全国の視察団体が多く訪れています。そこで、必ず質問されるのは、東日本大震災後の農業科の取り組みについてです。震災後も農業科の学習が途切れることはありませんでしたが、六年経過した今でも、実習ほ場はもちろん、収穫物についても放射線量検査を行って、その結果を市のホームページに掲載しています。

今年四月には、日本児童文芸家協会会員の浜田尚子さんが、『田んぼに畑に笑顔がいっぱい』のタイトルで

農業科の挑戦を一冊の本にしてください、学校関係者や地域住民にとって喜ばしいものになりました。

一方、市では〇九年度より子どもたちの心の成長を知る一つの手段として、全小学校の三〜六年生を対象に、「農業科作文コンクール」を開催しています。農業の大切さや素晴らしさ、作物の命などに気付いた子どもたちは、「土のふとんがやわらかくよいふとんだと、こんなにおいしい野菜ができるんだ」(三年生)などと、実に感動的な表現をします。農業科の活動から得た実感は、子どもたちの知識・心・人間関係を豊かにするだけでなく、表現力の向上にも、とても大きな教育効果があることに私たちは気付かされました。

年々わが国の農業を取り巻く状況は厳しくなり、問題は山積しています。喜多方市も例外ではありません。農業従事者の減少、農業科支援員の高齢化などが現実問題として挙げられます。また、学校現場も社会情勢の変化と共にさまざまな問題を抱えています。基本的な人間の営みが変わることはありません。

私たちが継続してきた喜多方市の農業科に自信と誇りを持って、これからも変わらずに子どもたちの豊かな心の育成に取り組んでいこうと思っています。

よい土のふとんにおいておいしい野菜が育つた。  
小学生の子どもにも農業科の学習を始めよう。

## 種子をまくイチゴ

日本政策金融公庫  
テクニカルアドバイザー

吉岡 宏

イチゴの苗はどのようなにして増やすのか  
ご存じでしょうか。多くの野菜は種子を  
まいて発芽した芽生えを苗にしますが、イチゴ  
は親株から発生したランナー（つる）に着いた  
子株を切り取って苗にします。そのため、親株  
がウイルスなどに感染すると、子株（苗）も感染  
してしまいます。また、親株の管理や採苗作業、  
さらには、子株を土壌病害の汚染から防ぐため、  
地面に触れないようにして採苗する空中採苗  
など、手間のかかる作業  
が行われています。

イチゴを他の野菜と同  
様に、種子で増やすよう  
にすると、育苗の省力化  
が可能になり、病気の感  
染リスクが下がります。  
さらに、種子をまけばいつ  
でも苗が確保できるなど、  
多くの利点があります。

しかし、イチゴは子株  
で増やす栄養繁殖性の作  
物のため、遺伝形質が固  
定されています。そのため、種子をまくと、親  
とは異なった形質のイチゴが現れるのです。

種子をまいて苗にするイチゴ品種（種子繁殖  
型品種）を作るためには、花粉親（♂）と種子親  
（♀）のそれぞれを、自殖によって遺伝的に固定  
する必要があります。これには長い年月がかか  
り、一年に一回の自殖で二〇年近くかかります。  
これまで日本では、オランダで育成された種子  
繁殖型のイチゴ品種「エラン」が夏秋イチゴ産

地で栽培されていますが、四季成り性の品種で  
収量性や品質面で問題があるため、広くは普及  
していません。



本初の種子繁殖型イチゴ品種は、千葉県  
農林総合研究センターの石川正美さん  
らによって育成され、二〇〇八年に品種登録を  
出願、二一年に登録された「千葉F-1号」です。  
しかし、この品種は収穫期がやや遅いことや種  
子が入手できないことなどにより普及しませ  
んでした。



種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」  
(写真提供：三重県農業研究所 森利樹氏)

二番目の品種は、三重  
県農業研究所の森利樹さ  
んが中心となり、三重県  
香川県、千葉県と九州沖  
縄農業研究センターとの  
共同研究により育成され、  
一四年に品種登録を出願、  
一七年に登録された「よつ  
ぼし」です。これは、四季  
成り性の品種ですが、通  
常の四季成り性品種と同  
じ時期に栽培が可能です、  
収量性、品質ともに優れており、現在普及に向  
けた取り組みが行われています。

三番目の品種は、千葉県の成川昇さんによつ  
て育成され、昨年の二二月に品種登録出願され  
た「美生の宝」です。この品種は、今後どのよう  
になるか関心のあるところです。

種子繁殖型イチゴ品種は、開発が始まったば  
かりですが、今後のイチゴ栽培を大きく変える  
ことが期待されます。

F



## Profile

よしおか ひろし  
1948年京都府生まれ。弘前大学大学院農学研究科  
(修士課程) 修了後、農林省野菜試験場入省。農林  
水産技術会議事務局研究調査官、(独)農研機構野  
菜茶業研究所長、(社)日本施設園芸協会常務理事な  
どを経て、2012年10月から現職。専門は野菜の栽  
培生理。農学博士、技術士(農業部門)。





# 農業用トラクター「メカ馬」が走る BAMBAは万人の人で溢れかえる

北海道河西郡更別村

国際トラクターBAMBA実行委員会

吉本 正美



## 更別村でしか観られない

今年の七月九日、人口三三〇〇人のいつも静かな小さな村は日本中どこを探してもないであろうユニークな競技を見るため一万人を超える多くの人で溢れかえった。

農業用大型トラクターが、馬力数によって二・五〜三トンのコンクリート製ソリを引き速さを競う「第一五回国際トラクターBAMBA」が、更別村の多目的施設、ふるさと館周辺の特設会場で行われたのだ。

毎年一回、七月に開くこの大会。今年も十勝を中心に遠くは釧路管内の弟子屈町まで八〇〜三五〇馬力の三六台が、また、昨年から開催を始めた女性限定特別レース「メカジョ・スズランカップ」には都会からの参加者も含む九台が出場した。この四五台が、更別市街中心部から会場まで一・二キロメートルの距離を威風堂々パレードした後、馬力別に四つのカテゴリーに分かれ、畑地・全

長一五〇分のコースで馬に見立てたトラクター「メカ馬」がエンジン音をうならせながら、それぞれ優勝を目指しレースに挑んだ。

大型トラクターであるメカ馬が重量級のソリを引きコース内のポールを倒さないようスラローム走行するには熟練の手綱さばきが必要だ。何回も出場経験のある御者から今回が初出場の御者まで、日頃の農作業や練習で鍛えた腕前を披露した。

ときに土ぼこりを上げながら走り抜けるメカ馬の姿は迫力満点である。真夏日が続いており、この日も気温は三〇度を超えていた。会場に訪れた多くの親子連れや観光客らが暑さに負けず汗を拭いながら、間近で観戦。どのメカ馬が勝ち抜けるか「競馬新聞」ならぬ「メカ馬新聞」を見ながら楽しんでいった。

「国際トラクターBAMBA」の来場者はそのほとんどが村外からで、本州からも毎年のように来てくれる方もいる。一度に四〇台を超えるトラ

クターのパレードや、ソリを引く一風変わったレースはここでしか観ることができない、と楽しみにしているファンも多い。

## トラクターもおもしろいべー!

更別村は、総面積の七〇%が耕地で、二〇一六年現在、総耕地面積二万鈴、農家戸数は二二八戸、一戸当たりの経営面積は四九・七鈴であり、トラクター所有台数は五・五台を超えている。日本の食糧基地として農業を基幹産業として発展してきた。しかし、全国のローカル地域の経済が衰退していく中、更別村も他人事ではなく、さらなる活性化を図るため、〇二年度に更別村商工会が北海道の補助事業「地域資源調査事業」を活用し、検討を行った。「更別の資源って、何だ?」

住民が村おこしの先進事例を視察し地域活性化の手法を学ぶとともに、改めて地域の綿密な調査・検討を行った。その結果、「大規模農業」「肥沃な大地」「労働と活力・トラクター社会」など更別

profile

吉本 正美 よしもと まさみ

1957年2月生まれ(60歳)。北海道広尾郡大樹町出身。75年から2017年3月まで更別村役場勤務。退職後は、村農業担い手育成センターおよび村結婚支援の専門推進員としても活躍、農業後継者などの育成に力を入れている。今年4月から国際トラクターBAMBA実行委員会の事務などに従事。趣味は囲碁、日本酒をこよなく愛す。

国際トラクターBAMBA  
実行委員会

2003年4月更別村の村民主体で設立。農業用トラクターで北の大地を駆け抜ける「トラクターBAMBA」を年1回開催している。メカ馬は隊列を組んで村内をパレード後、更別村ふるさと館の屋外特設会場にてスラロームを走る迫力のレースを展開。決勝レースでは特産品などが当たるメカ馬投票を実施している。この新・スポーツイベントで更別農観社会の活性化を探求しようと活動している。

の農業を素材とした全国随一の地域資源が村にあることを発見、再認識した。そして、この資源をどのように有効活用しようかとさらに検討をした。検討委員である農家の青年から「帯広のばんえい競馬では、馬がソリを引く『バンバ』やってるのだから、トラクターでレースやったらおもしろいべ！」との提案があり、即座に他の検討委員たちからも「おもしろいべ！」と賛成の声が上がり、話が盛り上がった。

帯広市が運営する帯広競馬場のばんえい競馬は、体重1トを超える馬が重りを乗せた鉄ソリを引いて直線コースで力とスピードを競うものだ。ばんえい(ばんば)競馬は、北海道開拓時代の農耕馬を利用したもので、一部地域では「草ばんば」も行われるなど北海道が生み出した独自の馬文化



上：メカ馬45台による商店街のロードパレード。その迫力は圧巻  
下：重さ3tのソリを引いて、ポールを倒さずにゴール目指して走行する

として定着しており、「北海道の馬文化」として北海道遺産にも選定されている。

〇三年四月、村民の自主的参加による「国際BAMBA実行委員会」が設立された。コース設定付随イベント、さらには、競技規則など検討の結果、「国際トラクターBAMBA」が誕生した。

なお名称であるが、農家で使っている大型トラクターが、「ジョンディア」「マッセイ・ファーガソン」「ニューホランド」など外国製も多いことから「国際」を冠した。

一〇歳から七〇歳代の実行委員

運営の大きな特徴は、後援団体や協賛企業の多さにある。行政や関係機関の理解があり助成金を受けているが、運営に賛同、応援をいただいでい

る企業や個人の方は二〇〇を超え、その寄付が運営費の大部分を占める。

そして運営に当たる実行委員会は、「人と人との架け橋」となればとの思いから、農家の若者たちを中心に多種多様な職業の人達で構成され年齢も一〇〜七〇歳代と幅広い。皆、ボランティアで参加してくれており、その数は村外の人を含め二〇〇人を超える。お互いの意見を尊重し、より良いイベントにするために開催の半年前の一月から取り組みを展開している。

イベント会場には、ばんえい馬とのふれあいコーナー、メカ馬試乗会、ミニメカ馬遊具コーナーの設置、さらに十勝の農畜産物を使った屋台や野菜の販売など幅広い催しを行っている。地域の将来を担う子どもたちへ農業の魅力を伝えると



もに、消費者(都会に暮らす人など)との交流が生まれ、安心・安全な食・農産物や農業の大切さを村外にアピールしている。

さらに女性を意識した取り組みも開始した。過去、BAMBAレース出場者に女性も参加したことはあるが、ほとんどが男性であった。しかし、農業の担い手には女性も少なくない。一五年に北海道発の地域ドラマ「農業女子はらべ娘」(NHK札幌放送局制作)が放送され、クライマックスシーンで主人公の農業女子が「トラクターBAMBA」に出場するシーンが撮影されたこともあり、その翌年、第一四回開催時に初めて「女性農業者特別レース」をスタートさせた。

今年も農業従事者に限らず、どんな職業の女性でも参加できる条件に改め、女性限定特別レース「メカジョ・スズランカップ」として開催した。参加者は九人、うち四人は農業とは無関係の都会から集まった女性だ。更別村の農業を知ってもらい関心を持ってもらいたいと考えている。

### 開催自粛の試練乗り越えて

さて、今回の開催で一五年目を迎えたが、その間、順調とはいかない年もあった。

このイベントを開催しはじめて間もなく、十勝管内の主要作物であるバレイシヨの天敵、病害虫のジャガイモシストセンチュウが発生した。この病害虫の発生が認められた場合は、向こう三〇年間は作物を作れなくなる。万が一、トラクターBAMBAが原因で病害虫が侵入したとなると、もうイベントの続行は不可能だ。そのため、開催の是非が問われた。

検討の結果、この回より全メカ馬に洗浄を義務付けた。メカ馬が自宅農場などを出発する前、指定の受付場所、レース会場出入り時の計四回出場者に高圧洗浄機で車体の隅々まで洗ってもらおうよう防疫害虫対策を徹底している。

さらに、二〇一〇年の第八回開催は宮崎県内で発生した家畜伝染病「口蹄疫」の被害拡大を防ぐため、過去に十勝管内でも発生したことがあることを踏まえて、開催の自粛を決断した。

これら問題に直面する度に、関係機関からの情報収集、防疫など対策の勉強会を行った。病害虫対策に万全を期さなければ村内ばかりか出場した市町村の農業経営に大打撃となることを学び、また、地域農業は自らの手で守るという意識改革にもつながった。

### 地域の絆で連携を

一方で、課題もある。特に役員を務める者の負担が大きいことだ。二六人いる実行委員会の役員は、新聞社や放送局を訪問しイベント開催の周知や新たな協賛企業の開拓などを日中に行っている。各自の職業に少なからず支障がある中で運営が行われているのが実態で、役員の人選は、このような下支えの活動を認知した上で行われている。委員会では、事前に活動する日にちや時間を決めて活動をしたり、仕事内容のマニュアル化を進め役員の負担を減らす努力をしている。

またイベントは、回を重ねるほど内容がマンネリ化してくる。しかしトラクターBAMBAはあって毎年同じ時期に同じ内容を継続することに意義があると考えている。継続することで地域の

文化として定着していき「トラクターBAMBA」といえば更別」というように人々に認知してもらえる。

更別村では、「トラクターBAMBA」の他にも実行委員会形式により、更別和牛をメインに更別の「食」を結集して、地場の味覚を楽しんだり、内外に農畜産品や特産品を提供する「さらべつ大収穫祭」も十月に実施している。都市と地方の交流や都市と農村の共生が推進されて久しい。短い時間ではありながらも毎年これらのイベントを通じて交流や共生の役割を担っているものと思っ

ている。

トラクターBAMBAの開催は、地域の「絆」をより強固なものにしていると自負している。村民は自らの意思でイベント運営に参画していることから、みんなトラクターBAMBAに誇りを持っている。小さな村の大きなイベントを継続・拡大していくことで、郷土愛の醸成や地域経済の活性化に貢献しているものと信じている。

更別村は開拓から二〇年余り。私たちは、先人が切り開いた農地を受け継ぎ、未来につないでいく義務がある。日本有数の大規模経営に発展してきた主産業の農業で更別村にとって、その振興発展は農業が中心であることは将来も変わらないであろう。

こうして農業の魅力を伝え、都市と農村の交流や共生を推進することで、更別村の知名度を上げ移住・定住の機運が高まることを期待している。さらに、六次産業化など新たなむらづくりの可能性も探りながら「元気な村」「いつまでも住み続けたいまち」を目指していく。

『農業をデザインで変える  
北海道・十勝発、ファームステッドの挑戦』

長岡 淳一 阿部 岳 著



(瀬戸内人・1,600円 税抜)

一日の魅力がやる気を醸し出す

村田 泰夫

(ジャーナリスト)

町の中には、ロゴマークであふれている。コンビニ、ガソリンスタンド、銀行など、私たちはロゴをパッと見るだけで用事を済ませることができ

る。企業が何を使命として行動しているのか、どのような企業でありたいのか。それらを一目で消費者に訴えるツールとして、コーポレートアイデンティティー(CI)ブームが起きたことがあった。社名の字体や社章のデザインが変わっただけで、その企業のイメージが一変したという経験のある人も少なくないだろう。

農業にもデザインの秘めた力をもっと活かすべきではないか。そんな情熱にかられたブランドプロデューサーの長岡淳一氏とグラフィックデザイナーの阿部岳氏の共著が本書である。

大農業地帯・帯広市出身の二人は、農業をデザ

インで支援する会社「ファームステッド」を立ち上げた。農家のロゴやシンボルマーク、農産物や加工食品のパッケージデザインやブランドづくりを手掛け、活躍している。

農家が農産物を売り込むにはどうしたらいいのか、パンフレットはどう作ればいいのか、どんな名刺を出したら名前を覚えてもらえるのか、自家製ジャムのブランド名はどうするか。そんなブランド構築や商品プロデュースに関わる仕事を始めたが、二人は思わぬ反響に驚いた。

「パッケージの変更で売り上げが伸びた」ということよりも、「ロゴマークができて、モチベーションが上がった」とか、「これで前に進める」という声が大きかったのである。

その農場の歴史やこだわり、生産者の想いを一目で伝えるロゴマークを二人は作成する。ロゴを染め抜いた旗を生産者にもってもらい、畑の真ん中に立つてもらおう。その時の生産者の表情は「前に進もうとする自信と、新しい旗印を得た喜びにあふれている」そうだ。

農業とデザインは無縁だと思っていなかっただろうか。企業のロゴやCIが従業員の誇りとやる気を支えているように、農場のロゴも生産者のやる気を刺激する。

生産者の想いを消費者に伝えるには、生産者の顔が見えなくてはならない。顔を表現するロゴやシンボルマークなどの旗印は、経済的指標では測れない大きな価値を生み出している。デザインの力の大きさを知る。

読まれています 三省堂書店農林水産省売店 (2017年8月1日~8月31日・税抜)

タイトル	著者	出版社	定価
1 日経ビジネス2017年8月28日号 こままで朽ちた 独り負けニッポン漁業		日経BP社	639円
2 ルポ 農業新時代	読売新聞経済部/著	中央公論新社	860円
3 JAに何ができるのか	奥野 長衛、佐藤 優/著	新潮社	1,200円
4 協同組合の源流と未来 相互扶助の精神を継ぐ	日本農業新聞/編	岩波書店	1,800円
5 アグリビジネス進化論 新たな農業経営を拓いた7人のプロフェッショナル	有限責任監査法人トーマツ・農林水産業ビジネス推進室/著	プレジデント社	1,500円
6 食料・農業・農村白書 平成29年版 (平成28年度食料・農業・農村の動向 平成29年度食料・農業・農村施策)	農林水産省/編	農林統計協会	2,600円
7 農林水産六法 平成29年版	農林水産法令研究会/編	学陽書房	14,000円
8 世界と日本の漁業管理 政策・経営と改革	小松 正之/著	成山堂書店	3,200円
9 スイス林業と日本の森林 近自然森づくり	浜田 久美子/著	築地書館	2,000円
10 逐条解説 農業協同組合法	農業協同組合法令研究会/編著	大成出版社	14,000円



# 第一回「アグリフードEXPO大阪2018」の 出展者を募集しています

「アグリフードEXPO」は、プロ農業者たちの国産農産物と加工食品の展示商談会です。

この出展対象は、農業者および国産農産物（水産物を除く）を主原料とする食品を主として扱う国内食品製造業者の皆さまです。

一回目となる今回は、二〇一八年二月二日（水）～三日（木）に、ATCアジア太平洋トレードセンターにおいて開催します（第一五回「シーフードショー大阪」も同時開催）。

募集期間は二〇一八年二月二日（水）から二月三日（木）までです。小間数が収容上限に達し次第、受け付けを終了しますので、お早めにお申し込みください。

詳細については、公式ホームページ（<https://www.agri-foodexpo.com/>）をご覧ください。

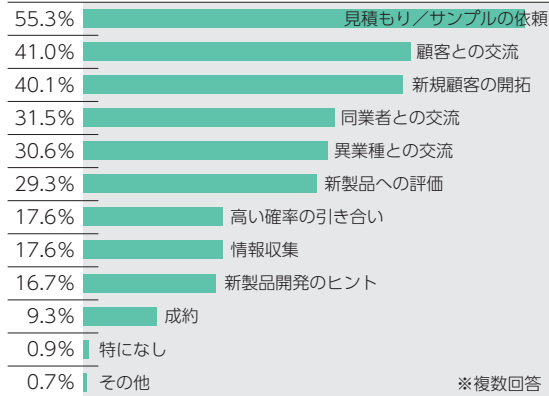
なお、第一〇回「アグリフードEXPO大阪2017」の出展者・来場者のアンケート結果を掲載します。（参考にしてください）

（情報企画部）

## 第10回「アグリフードEXPO大阪2017」の出展者アンケート結果

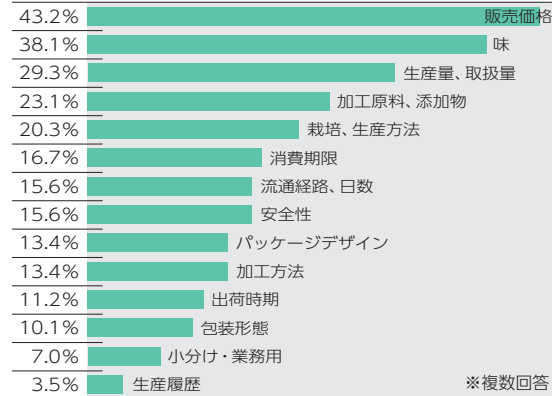
■出展者数…合計/454社 366小間 ※共同出展含む  
■会期中商談件数 1社平均/25件 最高/300件

出展の成果は？



■会期中成約件数 1社平均/4件 最高/60件  
■会期中成約金額 1社平均/112万円 最高/2,000万円

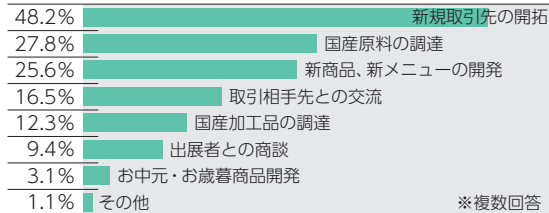
来場者の関心は？



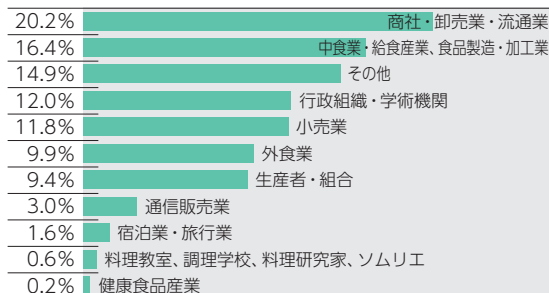
## 第10回「アグリフードEXPO大阪2017」の来場者アンケート結果

■公式登録総来場者数…15,262人（2016年度 15,490人）  
※第14回シーフードショー大阪の来場者を含む

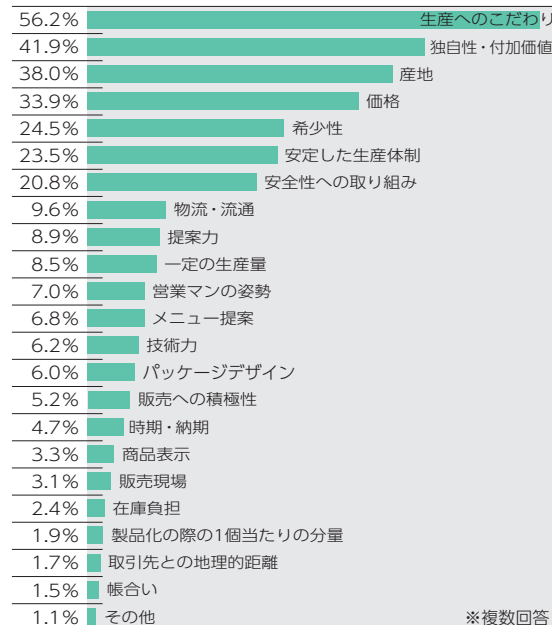
来場の目的は？



あなたの業種は？



取引で重要視する点は？



## 第二回「EXPO東京」 商談引き合い件数過去最多

八月二三日～二四日に国産農産物をテーマとした全国規模の展示商談会、第二回「アグリフードEXPO東京2017」を開催しました。

全国から七〇三の農業者や食品製造業者、六次化支援技術を提供する事業者の方々にご出展いただき、全国の魅力ある農産物や地元産品を活用したこだわりの加工食品を、バイヤーへ積極的にPRしました。

今回のEXPOでは、来場者数は一万三二四七人となりました。また、会期中の商談件数は四万四六八九件と昨年を上回り、商談引



会場は終日盛況。大勢のバイヤーが訪れました

き合い件数は過去最多となる七六〇〇件となりました。

会場では、専用の商談スペースや、落ち着いて商談したいとの要望を受けてブース近くに新設した「ビジネスラウンジ」「フリー商談スペース」で活発な商談が行われました。

出展者からは「バイヤーとの距離感が近く、商談がスムーズに行えました」「バイヤーとの話から商品工夫へのヒントを得られました」などの感想が寄せられました。

バイヤーからは「出展規模も十分に非常に活気があり、良い情報収集ができました」「初めて来場しましたが、次回も足を運びたいと思います」などの声が寄せられました。

(情報企画部)



開会式のテープカットの様子

## ● 交叉点 ●

## 香港最大級の国際食品見本市で 日本農水産物・食品輸出を支援

八月一七日～一九日に開催された香港最大級の国際総合食品見本市「FOOD EXPO 2017」

において、「日本公庫お客さまブース」を設け、日本産農水産物・食品の輸出を支援しました。

また、齋藤健農林水産大臣が会場を訪れるなど、オールジャパンで香港に農水産物・食品の売り込みを行いました。

今年で四回目の出展となる日本公庫は、ジェットロが運営するジャパンパビリオン内に、農業者・食品製造業者四社と共に国産和牛、日本茶、水産加工品などを出品しました。

日本公庫では、今年もジェットロと連携しながら出展前の準備や会期中のサポートなどを行いました。

これに加え、トライアル輸出支援事業(※)で提携している貿易商社にもご協力いただき、出展品の事前周知として会期前にバイヤーマッチングを実施しました。

その結果、商談件数は四社合計

で一一六件、うち成約見込み件数は一二件(八月末現在)となりました。

農林水産業を成長産業とするために、国産農水産物・食品の輸出を促進することが国の重点的な取り組みに位置付けられている中、日本公庫はお客さまの海外展開を引き続き積極的に支援していきます。

(※)農水産物・食品の輸出ノウハウを持つ貿易商社と連携し、初めての輸出に意欲のあるお客さまを支援する事業。

(情報企画部)



大勢の来場者でにぎわうジャパンパビリオン



## メール配信サービスのご案内

日本公庫農林水産事業本部では、メール配信による農業・食品産業に関する情報の提供をしています。メール配信サービスの主な内容は次の4点です。

- ①日本公庫の独自調査(農業景況調査、食品産業動向調査、消費者動向調査など)結果
- ②公庫資金の金利情報や新たな資金制度のご案内、プレス発表している日本公庫の最新動向
- ③農業技術の専門家である日本公庫テクニカルアドバイザーによる農業・食品分野に関する最新技術情報「技術の窓」
- ④日本公庫が発行する『AFCフォーラム』『アグリ・フードサポート』のダウンロード

メール配信を希望される方は、日本公庫のホームページ([https://www.jfc.go.jp/n/service/mail\\_nourin.html](https://www.jfc.go.jp/n/service/mail_nourin.html))にアクセスしてご登録ください。(情報企画部)

◆八月号「農と食の邂逅」で紹介された「牧場のパン屋さん」の伊藤恵美さんの働く姿がとても美しく輝いて見えました。

そのパン屋は島根県出雲市の中山間地域にあり、生地に地元産の米粉を、また生地や具材には自家牛乳をたっぷり使っています。

一家が力を合わせて生産した牧場の恵みを多用したパンだからこそ、小さな町でも評価され、一年も続いているのではないのでしょうか。

祖母、両親、夫、子どもが一つになつた素晴らしい家庭でパン作りを楽しんでいる恵美さんは、子どもたちと牧場を経営するのが夢だと言います。

全国の中山間地域は過疎化に拍

車が掛かっていますが、恵美さんは、ぜひこの夢を実現してほしいと思っています。

(広島県広島市 巨幸男)

### みんなの広場へのご意見募集

本誌への感想や農林漁業の発展に向けたご意見などを同封の読者アンケートにてお寄せください。「みんなの広場」に掲載します。二〇〇字程度ですが、誌面の都合上、編集させていただきます。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記してください。掲載者には薄謝を進呈いたします。

「郵送およびFAX先」  
〒〇〇〇〇〇〇四  
東京都千代田区大手町一―九―四  
大手町フィナンシャルシティノースタワー  
日本政策金融公庫  
農林水産事業本部  
AFCフォーラム編集部  
FAX 〇三―三三―七〇一―三五〇

## 編集後記

④ GAPという言葉に出合ったのは一〇年以上前、農水省生産局勤務時代。隣席の同僚が海外由来のGAPの手法を日本流にどう普及すべきか頭を悩ませていました。ギャツブだと衣料ブランドと混同しかねないのでジーエーピーと呼んでいたような気が。農場管理ツールの一つですが、流通事業者の間でも関心が高まっています。(嶋貫)

④ 支店にいた時によく耳にした飼料用米の取り組みが、今回の調査結果で認知度が低いと分かり驚きました。普段お肉を購入する時に気付かないだけで、実際は飼料用米で育てたお肉を購入しているかもしれないかもしれません。もっと飼料用米という言葉が知れ渡るといいなと思っています。今月号より新顔です。(中田)

④ 「小学校で農業!」。遠い昔の小学生時代、校庭の片隅に名ばかりの田んぼがあり、社会科の授業で田植えと刈り入れの体験をしました。その間、誰がお世話をしていたのか思い出せません。「多論百出」で紹介した喜多方市の小学校の皆さま、なんて素晴らしいお勉強をしているのでしょうか。命を育み、つなぐ授業、今年も豊作でありますように。(小形)

④ アクト農場さんに伺いました。妻の美恵子さんは経理などを担当し活躍していますが、二〇年以上前、公庫女性職員が「今後は女性が経営に関わっていくことが大事」と話したことに背中を押されたことと教えてくれました。「忘れられない出来事。その時(経営に)口を出していいんだって思ったの」。話を聞いてとてもうれしくなりました。(城間)

## AFCフォーラム Forum

### 編集

嶋谷 元 嶋貫 伸二 清村 真仁  
中田 さと美 柴崎 勇太 小形 正枝  
城間 綾子 上原 理恵子

### 編集協力

青木 宏高 牧野 義司

### 発行

(株)日本政策金融公庫 農林水産事業本部  
Tel. 03(3270)2268  
Fax. 03(3270)2350  
E-mail anjoho@jfc.go.jp  
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

### 印刷 凸版印刷株式会社

### 販売

株式会社日本食糧新聞社  
〒105-0003 東京都港区西新橋2-21-2  
第一南桜ビル  
Tel. 03(3432)2927  
Fax. 03(3578)9432  
ホームページ  
<http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/>  
お問い合わせフォーム  
[http://info.nissyoku.co.jp/modules/form\\_mail/](http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/)

### ■定価 514円(税込)

④ご意見、ご提案をお待ちしております。

④巻末の児童画は全国土地改良事業団体連合会主催の「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展の入賞作品です。

国産にこだわり  
農と食  
をつなぎます。

第11回 **アグリフード EXPO** 大阪 2018  
プロ農業者たちの国産農産物・展示商談会

日時

2月21日(水) / 22日(木)  
10:00~17:00    10:00~16:00

主催



日本政策金融公庫

会場

ATC アジア太平洋トレードセンター





徹底解説・GAPを説く



『大地の恵みに感謝』吉田 泰規 徳島県藍住町立藍住東小学校

■ AFCフォーラム 平成29年10月1日発行(毎月1回1日発行)第65巻7号(806号)  
 ■ 発行／(株)日本政策金融公庫 農林水産事業本部 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 Tel.03(3270)2268  
 ■ 販売／株式会社日本経済新聞社 〒105-0003 東京都港区西新橋2-1-2 第一南楼7/F Tel.03(3432)2927 ■ 定価514円(本体価格476円)

